

令和 8 年度 第 1 回千歳市廃棄物減量等推進審議会 結果概要

日時	令和 8 年 5 月 25 日（月）	開始	9 : 30	終了	11 : 00
場所	千歳市役所 議会棟 大会議室				
出席者数	委員 15 名中 10 名出席	会議の成立	成立		
途中出席者	0 名				
途中退席者	0 名				
事務局出席者	古島環境部長、倉重環境推進室長 【ゼロカーボン推進課】 浦課長、成田省エネ推進係長 【廃棄物業務課】 片山課長、浦川収集業務係長、長崎事業調整係長、櫻庭事業調整係主任、 槇坂事業調整係主任 【廃棄物施設課】 松本課長、三浦施設係長				
傍聴者	なし				
報道関係者	1 名				

会議録（発言要旨） 別添のとおり

令和8年度 第1回千歳市廃棄物減量等推進審議会 会議録（発言要旨）

1 開 会

新しく減量審委員となった方の紹介と、4月の人事異動に伴い、環境センターに配属された職員を紹介した後、開会を宣言した。

2 会長挨拶

<要 旨>

今日はお忙しい中、減量審委員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。
本年度1回目ということで事務局の人事異動もあり、また今回は議案が多いですが、委員の皆様には、活発なご質問及びご意見を何卒よろしくお願いします。

3 議 事

(1) 報告事項

① 令和7年度千歳市廃棄物処理実績について（速報値）

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

3ページ目の千歳市廃棄物処理実績の推移と1～2ページについての相関について教示願いたい。

(事務局)

実績の推移については、令和3年度から6年度までは確定値となっており、7年度は速報値となっております。また、各年度には年度ごとの目標値があり、資料の1～2ページ目については、その目標値と合わせて分析した結果となっております。

② 千歳市一般廃棄物処理基本計画進行管理

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

説明の中で「事業系廃棄物分別・リサイクルガイド」について触れられているが、すでに配布は終わっているのか。

(事務局)

市内の一部収集運搬許可業者には、契約している事業者の分を含めて配付済みとなっております。今後も、事業系一般廃棄物の排出が多い事業者等に収集運搬許可業者をとoshi継続して配布していく予定です。

(委 員)

ラピダスの建設工事に係り、事業所や事務所の数が増えている傾向があると思われるが、それに対する対策などは考えているのか。

(事務局)

事業活動が活発となりさらに事業系廃棄物が多く排出されるのではないかというご懸念ですが、現在今年の3月下旬から4月初旬にかけ「事業系廃棄物分別・リサイクルガイド」を収集運搬許可業者に配布し、また、その許可業者をとおして各事業所に配布したところであります。

このリサイクルガイドは、事業者の皆様に活用していただき、資源化を促していくことを狙いに作成しておりますことから、各事業所における今年度の実績の推移を見ながら、そのまま資源化を促していくのか、もしくは何らかの対応が必要となるのか経過を観察している状況であります。

③ 市指定ごみ袋について【資料3】

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

市指定のごみ袋については基本的に足りなくなることはないとの認識でよろしいか。

(事務局)

お見込みのとおりであります。令和7年度末において1年6か月分は確保しておりますので、市民の皆様には買いためなどせず、安心して購入していただければと思います。

(委 員)

今年度の予算から見て、市指定ごみ袋の発注は、現在の石油高騰のあおりを受けないのか。

(事務局)

中東情勢の悪化を受け、改めて参考見積を業者をお願いしたところ、令和8年度の予算策定時の見積金額から1.3倍となるとの報告を受けていることから、全体の発注数量を約1/2としました。

また、この1.3倍の金額となると、バイオマス（植物性由来）プラスチックを25パーセント混ぜて作成した場合において同等程度の金額になるとの聞いており、脱炭素化を進めるためにも環境にやさしいバイオマスを使用した市指定ごみ袋に変更したところであります。

なおバイオマスプラスチックの変更による強度等の仕様は変わらないとのことであります。

補足説明となりますが、市指定ごみ袋手数料は、廃棄物処理事業に係る経費全体の約2%となっていることから、市指定ごみ袋の原材料の価格が上がっても、手数料への影響は少ないと考えています。

(委員)

当事業所においてもバイオマス由来の袋について業者が来たことがあり、燃やす際にダイオキシン等の有害ガスが発生しないという触れ込みを聞いたことがあるが、市ではバイオマスプラスチックの燃焼において、発生するガスの分析などはできているのか。

(事務局)

燃焼の際に発生するダイオキシンを含めた有害ガスについては、その材質も影響もありますが、主な要因は燃焼温度とされています。

ごみを燃やした時にダイオキシンが生成される温度は、主に650℃から750℃の間と聞いております。昔は、燃やせるごみの炉は、その日のうちに火をつけ落とすこととしており、一日に2回、必ずこの温度帯を通過することから、ダイオキシンの発生が問題となりました。

30年ほど前にダイオキシンを含めた有害ガスに関する特措法により、焼却炉は24時間燃焼することに変更されております。

また、道央廃棄物処理組合焼却処理場においては、発生するガス等の成分分析を行っており、令和7年度は8回の分析の結果、すべての環境の項目において基準値以内との報告を受けております。

④ 千歳市一般廃棄物処理施設修繕計画の策定について【資料4】

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委員)

直近に修繕するものはあるのか。

(事務局)

来年度になりますが、受入れコンベアの修繕、選別機械のうち磁石で選別する磁選機というものが修繕の対象となっております。

⑤ 道央廃棄物処理組合焼却施設の火災について【資料5】

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

なし

4 その他

① リチウムイオン電池の回収について【資料6】

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

リチウムイオン電池について結構な頻度で事故が起きており、増加しているような気がする。また、リチウムイオン電池が取り外せない製品が多く販売され、さらにネット通販をとおして購入されている状況であると認識する。

さらに、リチウムイオン電池が内包されているかどうか分からない製品があるが、回収をどのようにしようとしているのか。

(事務局)

まず、製品の中にリチウムイオン電池が内包されているかどうか分からない場合が多いので、今後市民が理解しやすい形で周知啓発をし、適正な処分を促したいと考えております。

また、処分方法については、他の自治体ではそのままの状態で排出しもらい、それを行政が回収して適正に処分していくという方法をとっているところもあるとの事例もありますことから、他の自治体事例も参考にしつつ、適正回収の検討を進めたいと考えております。

さらにリチウムイオン電池の全国的な動きですが、他市町村を含め、廃棄物処理施設でリチウムイオン電池が起因とされる火災が相当な件数となっており、国では、スマートフォン、モバイルバッテリー、加熱式たばこの3品目について、製造者及び輸入業者に回収とリサイクルの取組を義務化、また、今後リチウムイオン電池を使用する製品については、容易に取り外せるものを設計するよう家電業界等に求めていく方針であると聞いております。

現在、各家庭に出回っているものへの対応となりますが、基本的には家電販売店にもっていき引き取ってもらうのが原則となっておりますが、引き取り額がそれなりの金額ということで、市民にはハードルが高い状況となっております。

そのため、拠点回収を含め、もっと簡便な方法がないか、他の市町村の取組状況などから検討しているところであります。

廃棄物処理施設の発火や火災ですが、市では赤外線センサーで発火・火災を早期発見する機械、及び常時散水する機械を設置し、発火があっても、すぐにラインを停止し消火する体制を整え、安定的な施設の稼働ができているものと考えております。

② 市指定ごみ袋をレジ袋として使用する取組について【資料7】

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

レジ袋を購入する方が 15%とのことであるが、レジ袋の金額を上げることで購買意欲を低下させる方法は市として取れないのか。

また若い人たちがレジ袋を購入する姿をよく見かけるが、その人たちへの働きかけは行わないのか。

(事務局)

レジ袋の価格については、それぞれの店舗が設定しているものであり、市は一切関与しておりません。また、有料化自体がレジ袋の削減を目的としているため、これ以上の市民の負担は難しいと思われます。

また、レジ袋削減の取組の一環としてマイバックの推奨を平成 20 年頃から大規模小売店、消費者協会、市が協定を結んで推進していましたが、ここ数年は辞退率が横ばいであり、レジ袋を購入している 15%の部分を少しでも改善できればという考えで市指定ごみ袋をレジ袋として使用する取組を行いたいと考えております。

今回、協定を結んでいる 7 店舗において、市民が商品購入時に指定ごみ袋を使う抵抗感を少しずつ緩和していくため、1 年間の実証実験を行ったうえ、市指定ごみ袋を販売する協定を結んでいない販売店へもこの取組を拡大し、レジ袋削減活動の範囲を広げ持続可能な資源循環・脱炭素社会への一助としたいと考えています。

(委 員)

今回行う実証実験は青と黄色の市指定ごみ袋を売ることによろしいか。また、そのまま販売することとなるとごみ袋という感じが強いが、デザインの変更を考えているのか。

(事務局)

燃やせるごみの袋で、10・20ℓの袋の使用を考えております。また、ご推察のとおり、食べ物等購入したものをごみ袋に入れるというのは抵抗感があるとのことで、同じような取組をしている一部自治体ではデザインを変更しているところもありますが、その他の自治体では、現行の指定ごみ袋のまま、取組を実施しているところもあり、本市においては、他自治体において、取組を継続することで抵抗感が薄らいでいくアンケート結果になっていることから、実証実験を 1 年間として行いたいと考えております。

③ 令和８年度審議会年間スケジュール（資料当日配布）

事務局より資料に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

なし

④ その他

《質疑等》

（委 員）

令和８年５月の広報ちとせにごみ処理手数料の検証について記事が掲載されたが、市民からなにか反響や問い合わせはあったか。

（事務局）

いまのところ記事に対する市民からの反響等は聞いておりません。

（事務局）

次回の審議会については８月を予定しております。内容は、千歳市災害廃棄物基本計画ついて、審議を予定しております。

また、前回の会議でもお話ししておりますが、今年の１１月が審議会委員の皆様の改選時期となります。改選につきましては、まだ半年以上先ではございますが、６月中に、各団体に推薦依頼を行いたいと思いますので、推薦で来られる方につきましては、組織内で後任者がきまりましたら、引き継ぎをお願いしたいと思います。

いずれも詳細が決まりましたら、事務局から別途ご案内いたしますが、本件につきまして、また何かありましたら事務局の方まで相談していただけますようよろしくお願いいたします。以上です。どうもありがとうございました。

事務局からは以上です。

４ 閉 会

（会 長）

以上をもって、第１回千歳市廃棄物減量等推進審議会を閉会します。